

CEL ホームページ

<http://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。
※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

Volume 122
July 2019

特集

世代間をつなぐ
——高齢社会を生きる知とは

2019(令和元)年7月1日発行

発行

大阪ガス(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

田中雅人

企画・制作

熊走珠美

編集人

日下部行洋

編集

(株)平凡社

アートディレクション
& デザイン

okamoto tsuyoshi +

校正

(株)アンデバンダン

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2019 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複写
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は
必ずしも大阪ガスの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

長生き難民にならないために 高齢社会でつながる

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所

所長 田中雅人 Tanaka Masato [2019年4月 就任]

「定年後の楽しみは何ですか？」と訊かれて即答できる
人はどれ程いるだろうか？

世界有数の長寿国の座を得て久しいわが国であるが、介護問題、年金問題、孤独死、認知症など、高齢社会に関する話題はネガティブなものも多く、果たして高齢者にとって住みやすい国なのだろうか？ あなたは人生100年時代の到来を目前として、高齢社会に対応する準備は万端だろうか？

建物に構造寿命と機能寿命があるように、人の寿命にも肉体寿命と気持ちの寿命があるのではないだろうか。肉体寿命のことは医療の分野に任せるとして、われわれは気持ちの寿命を如何に延ばすかを考えてみたい。

近頃は、体はピンピンしているのに、時間を持って余している「長生き難民」が増えているという。あるいは肉体寿命が延びても、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)が下がっているという指摘もある。気持ちの寿命を延ばすには、とにかく、つながりを持つことが有効ではないか。

老いてからの独りは身にしみるし、何より孤独では気が滅入る。それが理由かはわからないが、最近では定年後の結婚、しかも初婚が増えているという。人間は社会的動物であるとアリストテレスは定義した。高齢者になっても、いや、高齢者になるほどに、社会的になる、つまり、いろんなつながりや交流を持つべきなのかもしれない。

さまざまな交流の場に出して直接、人とのつながりを持つことはもちろん、デジタルアレルギーを取っ払って情報でつながり、また、会社をリタイア後もなお、仕事でつながる……。自身の努力はもちろんのこと、つながりや交流を促す社会のしくみやコミュニティの協力が不可欠だ。

長生き難民にならないために、さあ、今からつながりを持つ準備をしてみませんか！